

Living device

Step up 「あたらさん」的 生活者

【あたら 可惜】とは「もったいない」の古語で「あたらしい」の語源になったといわれています。【あたら＝もったいない】に【さん＝SUN＝太陽】の恵みをプラスして、さまざまな情報を発信しています。



雨水が溜まるのが待ち遠しい。冬の間は凍ってしまふので、水を抜きます。



ソーラークッカー〈かるびか〉。得意料理はシチューやカレーの煮込み、ジャガイモのマッシュや大根の田楽も。白身が茶卵色になり、黄身はホクホクの「お日さまのゆで卵」は絶品です。(しなの鉄道・信濃追分駅線路脇にて)

那須 由莉：らびず舎・代表

多くの女性誌創刊や生活情報誌の編集に携わる。2005年『暮らしの手帖別冊・あたらさん』の編集長として、創刊と同時に「しなの鉄道・信濃追分駅」駅舎に「あたらさん編集室」を設置、別冊の休刊後も継続して駅舎を借り、現在に至る。「もったいない＝あたらさん」の知恵と心をコンセプトに、編集・制作と創作活動を続ける。軽井沢・借宿「ビオトープKBS」のメンバー。

ビオトープKBS: <http://biotopekbs.sakura.ne.jp/>

フェリス女子学院大学のエコ化に魅せられて——「ソーラークッカー」と「雨水くん」——

横浜市泉区の緑豊かな街にある、フェリス女子学院大学の緑園キャンパスをご存知でしょうか？ 夏休みに開催された「自然の力を体感するワークショップ」を取材したのは、もう13年も前のことになりました。当時の学長・中間慎先生は環境科学の第一人者で「実生活の中で自然の恵みを感じ、自然との共生について考える場を学生たちに用意し、理屈だけでは伝わらない理念や考え方を伝えたい」とのお考えでキャンパス全体をエコ化なさった方。壁面緑化、太陽熱温水器、ビオトープなど、キャンパスのあちこちで「環境との共生」、「自然の恵み」を実感させられ、その理念を享受する学生達にも魅せられました。そして今年、平成30年度の環境大臣賞を同大学の「エコキャンパス研究会」が受賞したとのニュースを聞き、大学全体をエコ化して環境問題に取り組んだ中間先生の教育の成果が着実に出ていることを知りました。

自然と一体になり「明日をたいせつに思う気持ち」を発信したいと、この信濃追分の無人駅舎に編集室を開設したのも13年前です。本間先生の理念を実践させるべく、まずソーラークッカーを購入。春夏秋冬、お日さまの力を実感しています。また、古いウイスキーの樽を利用した雨水の貯水槽(愛称・雨水くん)も設置しました。水道のないホームで、草花への散水にどれほど役立っていることか。

今では、どちらも駅舎暮らしの必需品です。

情報募集・問合せ先 制作・発行：『めづるくらし』研究会 発行人：田邊 早苗 / 編集人：柳谷 廣之

HP: <http://meduru.webcrow.jp/index.html> E-mail: medurukurashi@gmail.com ©"MEDURU KURASHI" Project Team 2018 *本書の無断転載、無断複製(コピー)を一切禁じます。

◆ この事業はく神奈川県社会福祉協議会 地域福祉活動支援事業助成金>で運営しています。